

# やすらぎ

平成21年4月1日  
〔第120号〕

発行 御所モラロジー事務所 発行責任者 吉田 実  
〒639-2241 奈良県御所市茅原118-1 TEL/FAX 0745-64-3030 E.mail gose-mc@m5.kcn.ne.jp

## 《中日本生涯学習センター講座受講》



平成20年度 第17回（通算第17回）中日本生涯学習センター講座 平成21年2月19日（木）～2月22日（日）

この度、2月19日～22日三泊四日の中日本生涯学習センター講座を受講してまいりました。今回の受講は、昨年9月に開催されました生涯学習セミナーの事後開発の一環と致しまして、受講推進担当が同行受講の企画を進めてまいりました。しかしながら、担当者として会員の方々への案内が隅々まで行き届かず、結果は9名で事後開発というよりは、企業の社員研修の色合いが濃い参加者でした。また、私たちの受講に先駆け2月12日～15日に開催されました東日本生涯学習センター講座にも（株）三光丸本店様の社員さんが3名受講していただきました。お陰様で受講推進担当といたしましてはこの2月だけで12名のセンター講座を受けていただき、御所事務所からの年間受講者数が増えました。

センター受講をするに当たり、当初は私自身、センターよりも本部受講の方が「いいなあ」との思いも強かったのですが、今回の企画で申込者が一人でも居られたら受講推進担当者の義務として同行受講しなければならなかったもので、今回受講したというのが本音です。ところが、いざ受講をしてみますとやはりセンターの良さがそんな気持ちを吹き飛ばしてくれました。一步玄関をくぐりますと職員の方が気持ちの良い挨拶で迎えていただき、自身の受講の動機が恥ずかしい思いと同時に全身が引き締まっていくのがわかりました。でもまだ“勉強するのはいいが集団生活は嫌だなあ”との思いもありました。

しかし、そんな気持ちもあっという間にどこかへ行ってしまいました。初日の第1章・第2章

の講義に続いて、夕食後のレクリエーションでは部屋の仲間はもちろんのこといろんな方たちと交流が出来、“仲間”という感覚が広がってまいりました。また、集団生活の良いところは部屋懇談だと思いますが、それぞれの年代の方が一つの部屋で四日間過ごすわけですから、お互いを良く知り、理解できなければコミュニケーションが取れません。みんなが真剣に相手を知る努力をし、知らず知らずのうちに“父親がいて、おじいちゃんもいて、弟もいて”と自然と配役が出来ていました。

三日目の特別講義では村松俊彦先生（浜松西）が講師として講話をいただきました。村松先生は平成18年の御所事務所生涯学習セミナーに出講していただいております。懐かしくまた馴染みのある先生で親しみを感じました。

講義は一番印象に残ったものより再度気づきをいただいたのは、第5章の「人間としての責務を果たす」と第6章の「伝統報恩に生きる」でした（昨年「道徳実行の指針」のテキストを使用）。昨年父が亡くなり、父のありがたさ、また偉大さを改めて感じ、父が命を削ってまで家族を守り、会社を守ってきた精神はお金やモノで比較できるものではありません。そんな父に対して私が行ってきた親不孝、その他道徳的過失の多さにはあきれられるばかりです。私が今まで父から受けた恩恵に感謝し、父に敬意を払いこの受け継いだ命を大切に、子供たちに父の思いを引き継いでいけるようますます精進していくことを誓ってきました。

最後になりましたが、センターの食事は大変美味しくて今までの中では一番だと思いました。残念ながら今回受講できなかった皆さんには、是非美味しい食事をいただきながらこころをリフレッシュされることをお勧めします。

今回受講いただいた方々には大いに収穫があったようで、全員の受講感想文を掲載いたします。

受講推進担当 富士俊隆

## 東日本センター講座受講

今回初めてモラロジー講座に参加させていただきました。日々の忙しさで、何か忘れさせてしまった物を取り戻せた感じでした。



モラロジーの基本、成り立ちを学び、道徳は人生を豊かにすることを学びました。また、幸福を実現する品性、広く柔らかな心を養うこと、正義と慈悲の心を育む、人間としての責務を果たす、伝統報恩に生きる、自他の心を育てる、明るい未来をひらくなどを学びました。

今、この学問の大切さを痛感しています。これにより何か少しでも変われば、周りも変わっていきけると思います。再度復習し、学んだ事を皆に伝え、営業所を明るく、楽しくしていきたいと思えます。

三光丸配置研修部福島営業所長 小森 幸平

モラロジーの研修に参加させて頂きました。正直、あまり気持ちが前向きな状態ではありませんで



したが、緊張の中、現地到着そして受付、開校式、受講が始まりました。

日々仕事に追われる時間の流れから、全く違う空間に来たように思いま

した。そんな中、一つでも身に付けることが出来ればと考えながら、4日間の研修を終えました。

自分の中では人に対して感謝の気持を持ち、行動しているつもりでしたが、そうでは無かったようです。言葉づかいが心づかいであり、品性の向上に努め、心の改善を考えなければと、今考えています。良い事を良いと思え、悪い事を悪いと思える気持を持ち、仕事に反映してまいります。理解できない事も多々ありますが、少しだけですが向上したと思います。ありがとうございました。

三光丸配置研修部新潟東営業所長 太田 昭三



今回、初めてモラロジー講座に参加し、道徳実行の指針テキスト第1章～第8章を3泊4日で学びました。

各章すべて勉強になりましたが、特に品性を高め、感謝の気持を、親、妻、子供、友人、職場の同僚、お客様につねに持つこと、それが品性を高める事に繋がり、自他の心を育てるとのことが深く心に残りました。又、幸福とは、心配が無い事、善悪の判断、道徳にかなった行動、との事。すべて日々忘れないで今日から生きて行こうと思います。



色々な方と話しをし、得るものが沢山あり、今後の自分の人生の中で役立つと思います。考える時間もあり、とても有意義でした。参加させて頂き有難う御座いました。

営業所の皆さんにも考えてもらい、良い方向に向かいたいと思います。

三光丸配置研修部秋田仙北営業所長 今西清詩

### 曹爾高原へ行ってきたよ

3月1日、前夜の雨模様中止かなと思ながらも午前7時事務所前に集合、総勢11人のメンバーにていざ出発です。

空はどんより、天気予報は違うなと思ながらも国道368号名張中太郎から西へ集落を過ぎ棚田を見下ろす道端に車を停めておく。

今回は東の中太郎から西浦峠経由亀山峠ルートである。

綺麗に枝打ちされた杉小立の中を森林浴をしながら260mの段差をゆっくり上がってゆくとやっと西浦峠に着いた。林の中の峠で展望はないがここで一休み。

一息ついた後、左に進路を取り稜線を登って行くと、左側に三重、右側は奈良の県境の尾根伝いを歩くことになる。途中、見晴らしの良いといわれる三つ岩に立ち寄るが生憎ガスのカーテンに前方をふさがれ、大台ヶ原の大蛇ヶ原のごとく断崖絶壁に立つも何も見えない。良い天気だと、池の

平の湿原や樹林が谷底に広がっているのに何とも断念。しかし、そばに万作の黄色い花が可憐に咲いているのにホッと一息。

三つ岩を後にして前進、東の入山協力費徴収小屋を過ぎた先で11時頃となり早めの昼食を取る。一汗かいた後のお弁当はまた格別である。心配していた天気も食事をしているうちに、雲間よりお日様が差しポカポカ。

昼食場所を後にし、さらに登っていくと標高1038Mの倶留尊山頂に到着。山頂は小広い大地状になっている。登頂を記念に写真をパチリ。



早々に亀山峠に向けて出発、ここからは思いのほか厳しいコースとなった。ケヤキ谷分岐まで灌木の林の急峻な坂道をロープを頼りに下り、また二本ボソ(別名いわしの口996M)までロープを頼りに登るのである。この灌木帯を登りきるとパッとひらけて二本ボソの展望台に着く。三重県側180度の展望は、尼ガ岳、大洞山、さらに学能堂山、三峰山といった山が真近に見え、たたなずく山々に見飽きることがない。

二本ボソから亀山峠への灌木林を過ぎると、急に目の前が明るくなって今までの木々の様相とはがらりと変わり、“この大地は”と思うほどに右前方斜面は一本の木もないススキの草原に出くわす。一瞬“どうして”と思うほどにひらけている。

ここは室生火山郡の一带で、三重県側は荒々しい岩壁の様相を呈しているのに対して奈良県側はとてもやさしいなだらかな草原の台地になっている。自然の成せる技はなんと素晴らしい事かと感動しきりでした。



ここが曾爾高原である。高原一面がススキで覆われているのである。(ちなみにその広さは、甲子園球場の9倍の広さだそうです。)

古光山を正面に見ながら亀山峠まで歩みを進めると、そこからは奈良県側 180 度の展望。眼前に屏風岩、住塚山、国見山、鎧岳、兜岳が迫り来る、圧倒されそうだ。

亀山峠からススキの小道をやさしい風に包まれながら下ってくると、愛する妻の正体は池に棲む大蛇だった……という伝説が残るお亀池(今は湿原となってひっそりと静かな佇まいとなっている)を横に見ながら国立曾爾青少年自然の家に着いた。お疲れ様でした。よかった良かった。

有難うございました。

上島 春香

### 運営委員会報告

3月の運営委員会は3月22日(日)午後8時より事務所で開催され、委員11人が出席しました。吉田代表世話人は「平成20年度最後の運営委員会になりました。目標を挙げたが達成できず反省しています。平成21年度も新しい目標に向かって協力をよろしくお願いします」と挨拶しました。

#### 報告事項

1. 4月5日地方責任者研修会、4月11日第1回受講推進担当研修会及びビジネスクラブリーダー研修会などが大阪講堂で開催され、吉田代表世話人らが参加します。
2. 奈良県青年クラブの企画で平成22年4月、当事務所青年クラブが担当して催しを開催。それに合わせて準備をしていきますので、協力をお願いします。
3. 伝統の日感謝の集い、6月14日(日)は中日本生涯学習センターの瑞浪分園に行きます。

担当は研修委員会。詳細は後日連絡します。

4. 本部・センター講座受講予定表を作成、事務所内へ掲示し受講推進を図ります。
5. 女性クラブ行事として4月18日(土)~19日(日)廣池千九郎畑毛記念館へ研修旅行に行きます。多数の参加をお待ちしております。(現在11名の申し込みあり)

#### 審議事項

1. 「総会開催」について(4月12日)
  - ・ スケジュール(案)(都合により変わることがあります)  
19:00 総会開会、20:10 講話(30分) 梶進氏(大阪住吉モラロジー事務所 参与)、20:50 懇親会(40分、女性クラブの簡単な手料理)
  - ・ 事務所組織図(案)は、一部変わります。修正後、至急総務委員長まで提出
  - ・ 司会に女性、議長に山田幸雄さんを選任
  - ・ 4月8日(水)20:00~臨時運営委員会、10日(金)20:00~総会資料づくり
2. 予定されていた5月の本部講座受講は行なわない。また、別に集団受講をする日程を決め、その講座の受講にみんなが協力する。

### 均とマサヨの独逸見聞録 その11

景観を大切にこの国では、洗濯物は屋外に干せません。友達の家でもケラー(地下室)に干します。

しかし、天気の良い日は、中庭でほとんど裸で新聞を読んでいる人をよく見かけました。日傘をこよなく愛する日本人と違い、この国では傘自体あまり見かけません。雨が降ればパーカーを鞆から出し、フードをかぶります。

もうすぐ寒く暗い冬から花のシーズンになります。各家の玄関は花でいっぱいになり、待ちに待った夏を迎えるドイツです。 おわり

#### 編集後記

三年前仕事でドイツに行った友達が無事帰国しました。その間一回もドイツの生活を体験しました。「独逸見聞録」は一年近くになりました。話のネタも底をつき、この辺で終了とさせていただきます。長い間、有難うございました。 きん